

館長 佐藤 修

梅野隆さんが東京・京橋の『藝林』で、松下春雄の展覧会を開催したのは昭和63年である。青春時代に古本屋で買った昭和10年7月号の「みづゑ」「物故作家を偲ぶ」という特集記事のなかに松下春雄の絵が紹介されていた。以来30年近く松下の絵を探し続けて、昭和63年とうとう遺族を探し当てることができたのである。

松下春雄は明治36年名古屋生まれ。家は貧しく小学校を出ると銀行の給仕として働く。大正10年に上京し本郷研究所に学ぶ。関東大震災で帰名。鬼頭鍋三郎、中野安次郎、加藤喜一郎との四人でグループ「サンサシオン」を結成。後に早川国彦、遠山清が加わる。

幾度もの帝展入選を経て、25歳ころから油彩画に専念する。以降30歳で歿する（白血病）までの精進ぶりについて鬼頭は、「ネジを巻き過ぎてゼンマイをこわしてしまった」と語る。

サンサシオンは、松下たち若者によって創立され10年後に解散する。名古屋画廊・中山真一氏曰く、「名古屋において社会的なひろがりを持ちえた稀代の洋画グループであった。」

昭和63年、藝林での遺作展開催にあたり、梅野さんは心境をこう記している。

絵は描かれた時代の影を色濃く落としている。松下春雄の絵は、大正・昭和初期の浪漫の匂いを放っている。既にその表現は過去のものであり、時代の古さを留めているにしても、彼の絵の放つ芳香は半世紀を過ぎて尚、息をのむ匂いをもって観る者に迫ってくる。失われた心の歌を私に伝えてくれた。

サンサシオンというグループがもたらした活力と、その中核にいた画家・松下春雄の軌跡を追ってみたい。

## ■ 2017年展覧会スケジュール

変更となる場合もございます。



## ■ 2017年イベントスケジュール

2月19日(日) コンサート(未定)

3月5日(日) 燦々会の集い(予定)

## ■ 施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>

〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1

TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp

開館時間 午前9時~午後5時(4時30分迄にご入館ください)

入館料 800円(高校生以上)団体割引700円(15名以上)

身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。

休館日 1月17日~2月14日(収蔵品整理のため休館)

2月20、27日 3月6、13、21、27日

## ■ アクセス

 **お車** 練馬ICから2.5時間

 **鉄道** 東京から最速2時間

◆**関東、北陸方面から**  
上信越道東部湯の丸インターから15分

しなの鉄道「田中」下車、タクシー15分

◆**中部、関西方面から**  
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間

◆**関東、北陸方面から**  
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。

◆**中部、関西方面から**  
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



地域の情報をラジオで発信！  
**エフエムとうみ 78.5MHz**

リクエスト、メッセージは  
**m@fntomi785.jp**

## 梅野記念絵画館の美展



松下春雄 「座像」

## 松下春雄とサンサシオン

## の仲間たち展

2017年  
2月15日(水)~3月29日(水)

梅野  
記念  
絵画館  
www.umenokinen.com

市民ギャラリー(燦々会・みまき絵画会)

東御市梅野記念絵画館

〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL.0268-61-6161 FAX0268-61-6162

年譜

- 1903年 名古屋市東区に生まれる。
- 1915年 小学校卒業後12歳で銀行の給仕となる。
- 1918年 人見彌(ひとみわたる) 洋画塾に2年間通う。
- 1921年 18歳で上京し、自活しながら本郷洋画研究所に学び岡田三郎助に師事する。
- 1923年 20歳の時、関東大震災のために名古屋に帰郷。鬼頭鍋三郎、中野安次郎、加藤喜一郎とともに美術研究グループ「サンサシオン」を結成。サンサシオン第1回展を開催。(名古屋中央パルザー栄ホール)帝展中止で開かれた日本美術展に『湯島風景』が初選。
- 1924年 21歳の時、サンサシオン自由洋画研究所を開設。サンサシオン第2回展開催。皇太子殿下御成婚記念美術展に出品。8月上京し新潮社に勤めながら制作し辻永に師事。第5回帝展に『富春園』(水彩)が初入選。松下春雄水彩画頒布会をおこない、個展を初めて開催。
- 1925年 下落合文化村付近で春山行夫、大澤海蔵らと共同生活しながら制作する。第12回光風会に出品。第12回日本水彩画会に『静物』が初入選。遠山清らと会員に推薦される。サンサシオン第3回展開催。第6回帝展に『五月野茨を摘む』が入選。
- 1926年 第13回日本水彩画会に出品。第4回サンサシオン展を開催。第1回聖徳太子奉讃美術展に入選。第7回帝展に『木の間より』入選。
- 1927年 第14回日本水彩画会に出品。第8回帝展に『豊島園』入選。
- 1928年 松下春雄洋画個人展覧会を開催し63点を展示する。第15回日本水彩画会に出品。第15回光風会に入選し鬼頭鍋三郎らと会友に推挙。4月渡辺淑子と結婚。サンサシオン第5回展を開催。第9回帝展に『草原』(油彩)入選。
- 1929年 第4回本郷洋画展に出品。愛知社同人に推挙され、第6回愛知社展に出品するが翌年辞す。光風会・サンサシオン(第6回)展に出品。第10回帝展に入選。
- 1930年 第17回光風会に出品。第2回聖徳太子奉讃美術展に入選。サンサシオン第7回展開催。第11回帝展に『母子』(油彩)入選。
- 1931年 第18回光風会に出品。鬼頭鍋三郎らと会員に推挙。サンサシオン第8回展開催。第12回帝展「花を持つ女』が特選。
- 1932年 第19回光風会に出品。サンサシオン第9回展開催。第13回帝展無鑑査で『機織』出品。
- 1933年 第20回光風会に出品し、光風会評議員となる。サンサシオン第10回展開催後、サンサシオンの解散を決定する。サンサシオン第10回展開催。第14回帝展に入選。第8回名古屋市民美術展に出品。12月31日白血病のため30歳で死去。
- 1934年 第21回光風会にて遺作展開催。第11回帝展『母子』が故黒田清輝子記念奨励資金の特別買上品となる。帝室博物館(元東京国立博物館)に収蔵。第15回帝展で絶筆『母子』が特選となる。
- 1935年 東京府美術館十周年記念現代総合美術展が開催され、帝室博物館買上げ作品『母子』が展示される。



松下春雄 1931-33年頃 和装の女



遠山清 1933年頃 母子



松下春雄 1927年 風景



鬼頭鍋三郎 1929年頃 風景



松下春雄 1929年 三人集う



中野安次郎 1927年 運動場